# 設　立　趣　旨　書

我が国は少子高齢化社会を迎え、令和２年(2020年)度の前期高齢者は1,768万人、後期高齢者は1,691万人で、総人口に占める高齢者割合(高齢化率）は27.3％である。核家族である四人家族の基本世帯は1990年以降急激に減少しており、親族がお互いに支え合う構図の維持が困難になっている。

地域で障がい者が生き生きした暮らしを送るためには、地域成年後見推進事業と並行して、社会基盤となる地域福祉の向上が重要である。阪神・淡路大震災、東日本大震災で、ボランティアは強力な戦力になったが、被災した障がい者の心情に配慮した支援は難しい。また、自然災害時の中核的な公的支援機関においても、自然災害時の障がい者支援体制が整ってきたとは言い難い。

任意団体「虹の会」は、「ＮＰＯ法人成年後見センターかけはし（略称：かけはし)」の財務支援を目的として、平成28年(2016年)3月に設立された。平成30年(2018年)度から令和2年(2020年)度までの3年間、独立行政法人福祉医療機構（ＷＡＭ）助成の採択課題「知的・発達障がい者が地域で安心して、生き生きした人生を送る地域後見推進事業」を積極的に支援した。

令和3年(2021年)3月末でＷＡＭ助成が途切れたのを機会に、大場正昭は、かけはしを離れ、障がい者の福祉事業に関するＮＰＯ法人を新たに設立することになった。

任意団体「虹の会」は、「かけはし」を退職したＷＡＭ助成事業担当者らと協議し、弁護士・税理士・社会福祉士等の協力者たちと、障がい者福祉を活動目的とする「ＮＰＯ法人の設立」の準備委員会を、令和３年(2021年）６月に立ち上げた。数週間ごと準備委員会定例会を開催して議論を重ね、「ＮＰＯ法人障がい者福祉の虹の会」を設立するに至った。

設立目的は、「将来を支えるユース世代」・「今を支える壮年・中年世代」を「様々な障がい特性を理解できるサポーター」へと育成することである。ＷＡＭ助成事業での活動実績を踏まえ、社会基盤の地域福祉を向上させ、様々な障がいをもつ方々も共に地域で安心して、生き生きした人生を送ることができる地域共生型社会を創ることである。

公益の増進に寄与して参りますので、皆様方の温かなご支援をお願い申し上げます。

令和３年(2021 年）１１月１３日

法人の名称：ＮＰＯ法人障がい者福祉の虹の会

設立代表者：大場正昭